

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 5月30日更新

事務事業名		幼児フッ化物塗布事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	安武祐次
	施策	15	健康づくりの推進			所属課	健康づくり推進課	担当者名	前田友里
	基本事業	44	病気の早期発見			所属班	健康推進班	(内線)	2169
予算科目		会計一般	款4	項1	目6	事業連番10373	法令根拠	成果優先度評価結果：⑤ コスト削減優先度評価結果：⑨	
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	・H13年度より実施している。1歳6ヵ月から3歳までのむし歯が急増する時期に効果的なむし歯予防策として、また、歯についての知識を得る機会を増やすという目的で実施。 ①対象者：1歳6ヵ月月児健診終了者～3歳児健診対象者②実施方法：1歳6ヵ月月児健診・3歳児健診会場にて実施。お口の健康手帳・母子健康手帳持参。料金は無料。③実施回数：3～4ヵ月毎に計6回塗布を行ってもらう。④周知方法：1歳6ヵ月月児健診時に事業の周知を行う。また、健康づくり事業計画表、出生届時・転入時に配布するチラシにも掲載。市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診において、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ（手作り）を配布し、啓発を行う。 ・H23年度からフッ化物塗布の間隔を6ヵ月に1回（年に1～2回）とする。
【業務の流れ】	フッ化物塗布に必要な物品（塗布液等）の購入→お口の健康手帳の印刷→1歳6ヵ月月児健診時に事業についての説明を行い、お口の健康手帳を渡す。歯科衛生士よりフッ化物塗布。市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診においては、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ（手作り）を配布し啓発。→アンケートの整理・入力。
【主な予算費目】	需用費(消耗品費、印刷製本費、医薬材料費)
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	「今後もフッ化物塗布を続けていきたい。」という保護者からの声が多い。まれに「フッ化物は塗布したくないのではありません。」という声もある。歯科医師からも、むし歯予防のためにもぜひこの事業を継続してほしいという声が多い。また、一部より、幼稚園や保育園におけるフッ化物洗口についても、市が主体となり取り組みを始めてほしいとの意見あり。今年から、市での塗布が終了となる3歳児健診にて、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシの配布を開始したことについて、「とてもわかりやすい。」「こういう効果があるなら、ぜひ今後も塗布を続けたい。」という保護者からの声がある。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
1歳6ヵ月月児健診時にフッ化物塗布事業についての説明を行い、お口の健康手帳を渡す。1歳6ヵ月月児健診・3歳児健診会場にて歯科衛生士よりフッ化物塗布。（3～4ヵ月毎の塗布を勧める）市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診においては、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ（手作り）を配布し、啓発。その後、アンケートの整理・入力。		準備として、フッ化物塗布に必要な物品の購入及びお口の健康手帳の印刷をしておく。1歳6ヵ月月児健診・3歳児健診会場にて歯科衛生士より塗布。市でのフッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ（手作り）を配布し、啓発。塗布後はアンケート集計及び入力を行う。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 塗布者数(再掲)	人	フッ化物塗布者数は、年々増加しており、必要物品の需要が増加した。
→ イ 開催回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
1歳6ヵ月～3歳児		→ ア 1歳6ヶ月～3歳児の数
		→ イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
むし歯にならないようにする（う歯の保有率の低下）		→ ア 3歳児のむし歯の保有率
		→ イ
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
フッ化物塗布を行うことにより、う歯保有率に良い影響があるかを把握するため、塗布終了時（3歳児健診）におけるむし歯の保有率を成果指標として設定した。前年度より若干減少していることを見込み、平成22年度の目標値を設定した。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア	人	1,645	1,722	1,845	1,746	1,945	0	0	
	イ	回	48	48	48	48	48	0	0	
② 対象指標	ア	人	1,540	1,683	1,662	1,592	1,712	0	0	
	イ									
③ 成果指標	ア	%	23.97	28.31	18	23.27	18	0	0	
	イ									
投 入 費 用 量	事業費	国庫支出金	千円	95	98	63	24	50		(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	95	37	55	74	75		
	人件費	(A) 事業費計	千円	190	135	118	98	125	0	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特約	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	2	2	1	5	1	0	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間		時間	280	80	390	76	390	0	0
	(B) 人件費計		千円	1,120	318	1,552	313	1,606	0	
			千円	1,310	453	1,670	411	1,731	0	

事務事業名	幼児フッ化物塗布事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した むし歯になる要因は、個々の生活習慣とも密接に関連しており、フッ化物塗布をするだけでむし歯にならないというものではないと考えられる。よって今後は、フッ化物塗布に加え、塗布時の歯科指導にもさらに力を入れていく必要がある。
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 ☐ う歯保有率が減少しているという確証はないが、フッ化物塗布時の歯科保健指導を行い、各家庭の歯の健康に対する意識を少しでも高めていけるよう務めていく。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☐ 向上余地がある⇒【理由】 ☐ 向上余地がない⇒【理由】 ☐ フッ化物塗布率のさらなる向上を図っていく。また、塗布時に行う歯科指導にもより力を入れていく。フッ化物塗布の効果測定を行う。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 ☐ 他に類似する事業がないため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☐ 削減余地がない⇒【理由】 ☐ 幼児健診時に同時に実施することで、合理的に実施できている。また、最小限の事業費で実施しているため削減はできない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 ☐ 削減余地がない⇒【理由】 ☐ 委託では事業費の増加となるため、幼児健診時に同時に実施している。また、健診スタッフで対応できているため効率的である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☐ 公平・公正である⇒【理由】 ☐ 対象を限定しているが、予防的事業であるという目的のため適切である。また、費用負担はなく、費用負担は適正である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である⇒【理由】 ☐ 市の幼児健診と同時に実施しているため、他団体への事業の移行はできない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

今年度から、市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診において、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ（手作り）の配布を開始した。よって、チラシの配布を始める前に比べ、フッ化物に対する知識の向上や塗布の継続につながってきている。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 1歳6ヵ月児健診～3歳児健診時にフッ化物塗布を行うことで、むし歯予防における、フッ化物の利用について啓発を行っていく。また、塗布時に歯科衛生士から、ブラッシング等の指導を受け家庭での歯みがきについて学んでもらう。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 健診時の塗布だけでは、むし歯は予防できないため、家庭での毎日のケアが重要となる。フッ化物塗布の啓発とともに、家庭でのケアについても指導が必要である。																								